

## 令和4年度第3回舞鶴市文化振興審議会会議録

日時：令和4年11月25日（金）13：30～15：40

場所：舞鶴市総合文化会館 会議室

出席：（委員）中川委員長、直田副委員長、  
浦岡委員、江上委員、鈴木委員、田中委員、福本委員  
（事務局）福田部長、三方室長、松本担当課長、奥本館長  
藤本、佐藤

欠席：上杉委員、小森委員、立道委員

傍聴人：0名

会議内容：

### 1 中川委員長開会挨拶

- 次期舞鶴市文化振興基本計画について、前回の会議録のとおり、皆さまの知見を交えて、より良い計画にしていく作業が進んでいる。本日も具体的な提案をいただき、実りのある議論をしていきたい。

### 2 議題

#### (1) 令和5年度事業案について

（事務局説明）

- 文化振興に係る事業計画について説明。【資料1】
- 11月15日、文化事業企画懇話会においても提案し、意見等いただいた。

（委員からの主な意見等）

- 事業内容が去年と代わり映えしないように感じる。（田主誠展、市展など）
- 子どもや障害者に更にリーチするために、どういう工夫をしていくのが、これからの課題である。
- 乳幼児は自由に動き回り声を出すので、事業に参加しにくい。親と乳幼児と一緒に参加できる事業があると良い。
- 障害者を対象とした事業がない。
- 障害者を対象とするだけでなく、障害に対する配慮を進めていただきたい。
- 事業の主な対象に“成人”とあるが、“市民”で良いのではないか。→（委員長）ターゲティングの区分を考える必要がある。

- 事業内容が音楽に偏っているように感じる。→（委員長）あらゆる分野のアートがバランスよく供給されているか、点検されていないのではないか。
- 今年度は、『みんなの打楽器コンサート』『触る展覧会』『パントマイム』など、意欲的な姿勢が見られたが、次年度事業案はそういった視点が弱くなっているように見えて残念。

（個別事業に対する意見等）

- 5『アート・プログラム・デリバリー』… 事業の良さが分かってくると、受講希望が多くなってきた。
- 13『海が見える舞鶴市役所ロビーコンサート』… いつも平日開催で、行くことができない。観客はどれくらいか？ 出演者も参加しづらいのではないか。→（事務局）毎回ロビーの椅子が埋まるほど、多くの市民に聞いていただいている。出演者は公募している。
- 14『総合文化祭』… 参加団体が減って作品・出演者も減り、高齢化も進んでいる。30～40代の現役世代にも文化に触れていただきたい。
- 18『舞鶴市展』… ジャンル分けについて見直しが必要ではないか。改善点を出し新しい風を入れる工夫が必要。／今年初めて文化協会が市展のお手伝いをさせてもらい、大変勉強になった。／素晴らしい先生が審査をされていることについて、もっと広く近隣市町まで発信できれば、もっと盛り上がるのではないか。
- 19『文化の見本市』… 小中学生がたくさん来てくれた。様々な文化を巡る順路について、工夫が必要だと思った。

（委員長からの主な意見）

- 資料について、文化振興課が所管する事業のみの一覧となっている。文化振興課以外の部署が所管する文化事業があるのであれば、全体像を見せる必要がある。また、行政側だけの事業一覧でなく、民間の事業を含めた総括ができるとなお良い。新規事業や大幅改善事業がどれか、といった整理も必要である。
- 審議会では政策評価をする。事務事業評価（コストやパフォーマンス）は内部評価をお願いしたい。いずれも事業カード単位で、文化振興の6つの柱ごと或いは予算科目の款項ごとに目標を設定してほしい。
- 次期計画では、文化的人権を大事にすべき。暇・金・体力・社会関係がないという貧困に対して、アートや文化でバックアップする考え方を、前面に出してほしい。
- アウトリーチ事業とインリーチ事業の両方が必要。
- 病院、高齢者施設、障害者施設などに対するアウトリーチ事業をもっと

開発してほしい。

- 各ジャンル、世代、身体属性、経済属性、社会関係属性に応じたアプローチができる文化施策を開発してほしい。

## (2) 次期舞鶴市文化振興基本計画策定について

### 【前回会議からの課題について】

(小学校長会・中学校長会からの主な意見)

- アート・プログラム・デリバリーは、なくてはならない存在として定着してきている。
- 和楽器やダンスなど、特定の講座に受講希望が集中する傾向にある。
- 教科の枠に留まらない効果的な活用が課題。講座の種類が増えると嬉しい。
- 「文化的人権」の高揚が、「ウェルビーイング」に寄与する。
- 街づくりとも関連して、文化芸術と学校教育・社会教育を結ぶ役割を担う行政職や機関、その執行に当たって検証する協議会、広く公開する掲示板等を創設し、展開することが必要ではないか。

(委員長からの主な意見)

- 小学校長会・中学校長会いずれも、文化芸術と学校教育・社会教育との連携を問題提起している。コーディネート能力が必要ではないか。
- 部活動のバックアップシステムについても、併せて検討してほしい。

(副委員長からの主な意見)

- コーディネーターの役割は大事だが、舞鶴市内だけで確保するのは難しい。外部人材を確保するとしたら課長職級の給与も必要。

### 【次期計画について】

(事務局説明)

- 次期舞鶴市文化振興基本計画の骨格について提案。【資料2】

(委員からの主な意見等)

- 文化振興の6つの柱ごとに整理されると分かりやすい。
- 現行計画の施策の方向の表中、取組み時期を示す短中長の分類は、緊急性が分かって良かった。
- 市民に分かりやすい言葉で読みやすい文章にすることに加え、後で検証できるように施策の方向の箇条書きを残してもよいと思う。
- 従来の計画にも障害者という言葉が出てきているが、次期計画では「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」第九条にでてくる「障害

の特性に応じた」という一歩踏み込んだ文言を使ってほしい。

(副委員長からの主な意見)

- 現行計画の施策の方向の箇条書きは、アクションに繋がる具体的イメージを描いている。139個は多すぎて見づらいという意見もあるので、文章でまとめて、必要に応じて時期(短・中・長)について記述すると良い。

(委員長からの主な意見)

- 現行計画を全面改定するのではなく、現行計画に加筆修正して微調整する方向で進める。
- 次期計画では、中間コーディネート機能の必要性、人権としての文化・アートへのアクセス権について記載すること。
- 毎年7月頃に前年度の政策評価、1月頃に今年度の評価と次年度に向けての予備的協議ができるような、計画にしてほしい。
- 計画前文の中に、法定外自治事務としての自治体文化政策は、文化振興条例及び文化振興基本計画に基づき実現させていかなければならないことを宣言してほしい。
- この基本計画は、図書館、公民館、博物館、美術館、文化ホール、生涯学習等すべてを所管し、学校教育の芸術部門にも影響を及ぼす。非常に権威の高い、拘束力のきつい計画であることを心得て、運営をしていきたいと思う。
- チラシに“この事業は文化振興基本計画に基づき実施している”旨を記載するとき、どの柱に基づいて実施しているのかまで入れてほしい。

【計画の理念“楽しみ”について】

- “文化を楽しむ”ことが、余暇活動と捉えられるのは誤り。暇・金・体力・社会関係に恵まれている人が楽しむもの、という意味ではない。
- 文化を楽しむことは、人生を支え、生きる糧にもなる深い意味がある。
- 文化権は享受する権利。“楽しみ”は“享受する”こと。
- “愉しみ”とは少し意味が違う。

【その他】

(委員からの主な意見等)

- 赤れんがを活かしたまちづくりについて、赤れんがを活かした文化活動がなくてはならないのではないかと思う。→(委員長)市民の力でブームが起こった赤れんがのように、市民活動に対して行政が参画し、協働する仕組みが必要。逆に、行政がやっていること(総合文化会館の運営など)に市民が参画して事業提案を行うなど、協働できるような関係を

作れると良い。

- 文化施設は気軽に借りられる値段ではなく、6つの柱を支える今の議論と逆行しないか？ → (委員長) 公共施設ではなく、市民が空き家など面白いところをたくさん開発し、それを行政側が啓発できると良い。資金の集め方についてもいろいろと方法はある。
- 新年度の重点目標を審議会で決めるとおもしろい。

### 3 その他

- 次回日程について説明。
- 市民文化環境部長より終わりのあいさつ。